

第2学年 英語科学習指導案

紫波町立紫波第二中学校

日 時 平成18年10月2日(月) 6校時

学 級 2年1組(男子14名 女子19名 計33名)

授業者 高橋 里美

1 単元名 Speaking Plus 3 病院で
(NEW HORIZON ENGLISH COURSE BOOK 2)

2 単元について

(1) 題材について

「病院」という場面設定で、身体の症状をうったえる表現を学ぶ。身体の症状をうったえる表現はさまざまであるが、ここでは、風邪をひいたという仮定で医者と患者の対話が設定されており、医者の問いかけや患者の応答からわかるように、病院だけではなく、日常生活でよく行われる典型的な対話のパターンになっている。旅行や仕事など、海外を訪れる機会が増えている昨今においては、訪問先で事故に遭ったり、病気になってしまうことも予想される。そのような場面に備えて、自分の身体の症状を説明する表現を身に付けておくことは必要なことである。ここで扱われている対話文は、内容が非常に身近なものであることに加え、文法的にも比較的平易な文が多いので、生徒にとっては、あまり抵抗感を感じることなく、興味・関心を持って言語活動に取り組める題材となっている。

(2) 生徒の実態

英語の授業には、興味・関心を持って取り組んでいる生徒が多く、積極的な態度で臨んでいる。特に新出語句の発音練習や本文の音読練習には、意欲的に取り組んでいる。ワークなどの問題演習や本文の内容理解やQ and A では、やや難しいと思われる問題であっても、いろいろな考えを述べ合いながら、正答を導き出そうと努力している。今年度の5月に実施したNRTの結果から、4領域の中で「書くこと」が最も落ち込んでおり、中でも「基本的な英語や英文を書くこと」という項目が低い数値を示していることがわかった。よって、今年度は、授業の中で基本文を確実に身に付けさせる指導と、家庭学習として単語練習を課した上でパートごとの小テストを欠かさずに行うよう心がけて、指導にあたっている。

(3) 指導の構想

表現活動に重点を置いたコミュニケーションの仕方を学ぶ単元なので、特に基本表現については文法的な説明は避け、場面に応じた慣用的な表現としてとらえさせ、確実に身に付けさせたい。また、基本表現だけでは、相手に自分の身体の症状を的確に伝えるには不十分であることから、モデル対話を暗唱させ、相手の問いに答えられるようにするとともに、Tool Box の表現も積極的に使用させながら、会話の幅を広げさせたいと考えている。また、医者と患者の対話なので、暗唱に向けての練習や発表はペア学習が基本になるが、いつも同じペアではなく、さまざまなペアで練習ができるように、練習形態を工夫したい。

3 単元の目標

(1) 病院の診察で用いられる表現を理解し、自分の身体の症状について説明することができる。

(2) ペアでの対話活動に積極的に取り組み、モデル対話の一部を変えて、対話をすることができる。

4 指導計画（1時間扱い）

・Speaking Plus 1 病院で …1時間（本時）

5 本時の目標

（1）病院の診察で用いられる表現を理解し、自分の身体の症状について説明することができる。

（言語や文化の知識・理解）

（2）ペアでの対話活動に積極的に取り組み、モデル対話の一部を変えて、対話をすることができる。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）（表現の能力）

6 本時の評価規準

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化の知識・理解
評価規準	ペアでの対話練習に積極的に取り組んでいる。	モデル対話の一部を変えて、対話することができる。		病院の診察で用いられる表現を理解し、自分の身体の症状について説明することができる。
具体的評価規準	概ね満足 病院での医者と患者のロールプレイを楽しもうとしている。	モデル対話の患者の症状とその症状が表われた時期を変えて、対話することができる。		病院の診察で用いられる表現を知り、実際に対話の中で使うことができる。
	十分満足 A 間違ふことを恐れず、自ら学んだ表現を使って、対話練習にすすんで取り組んでいる。	症状の程度をたずねたり、それに対して答えたりするなど、工夫して対話の幅を広げている。		病院の診察で用いられる表現を理解し、正確に対話できる。
	Cへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習の形態を工夫し、生徒同士が教え合えるようにする。 ・音読練習を十分に行い、暗唱練習にスムーズにつながるようにする。 ・基本表現については、何度も繰り返し言わせることにより、定着を図る。 		

7 本時の展開

本時の目標の評価場面 聞き方 LV

学力【1：学ぶ力 2：学ぶための力 3：学ぼうとする力 4：学んだ力】

	学 習 過 程	生徒の活動	指導上の留意点
導入 10分	1 Greeting 2 Warm-up (Quick Fire) 3 問題・素材の提示 Guess 4 課題の把握 Today's Goal	1 英語で挨拶をする 2 教師との Q and A LV 3 3 医者と患者の対話を聞き、本時の課題を予想する。 LV 5 4 病院での診察に必要な表現について、学ぶことを知る。	(1：学習規律) (4：知識) (3：関心)
学習課題：病院で身体の症状を説明できるようになる。			
展開 35分	5 課題解決の予想 Maybe . . . 6 予想の分析・検証 Let's Try 7 課題の解決 Let's Check	5 (1)病院での診察に必要な表現を日本語で考える。 (2)英語ではどのように表現するのかを知る。 (3)モデル対話を聞き、それらの表現を確認する。 6 (1)新出語の意味を確認し、発音練習を行う。 (2)基本表現の口頭練習を行う。 7 (1)本文の音読練習を行う。 (2)ペアでモデル対話の暗唱活動に取り組む。 (3)Tool Box の表現を参考にしながら、モデル対話の一部を変えて、対話練習を行う。 (4)全体の前で発表する。 LV 5	(2：思考力・判断力) ・モデル対話を参考にして、医者 と患者の表現に分けて考えさせる。 ・評価のポイントを提示する。 対話練習に積極的に取り組んでいるか。(2：思考力・判断力) ・症状とその症状が始まった時期 を変えるように助言する。 モデル対話の一部を変えて、対話することができたか。
終結 5分	8 conclusion 9 Greeting	8 (1)自己評価シートに、本時のまとめのテストの答えを記入する。 (2)達成度と授業の反省を記入する。 (3)課題と次時の予告を聞く。 9 英語で挨拶をする。	(4：知識) (3：意欲) (1：学習規律)